

## 第4回健康と文化の森地区産学公連携協議会 議事要旨

■日 時：令和7年8月28日(木) 14:00～16:00

■場 所：藤沢市役所 本庁舎6階 6-1会議室

### ■出席者：

構成員：6名(オンライン出席含む)

学識経験者有識者：3名

関係事業者：3名

オブザーバー：

藤沢市健康と文化の森地区土地区画整理組合：2名

事務局：

藤沢市 都市整備部 西北部総合整備事務所：5名

藤沢市 市長室 共創推進課：3名

藤沢市 経済部 産業労働課：3名

株式会社フジタ

(藤沢市健康と文化の森地区土地区画整理組合 業務代行者)：2名

事務局補佐：

コンサル 八千代エンジニアリング株式会社：4名

アドバイザー：2名

### ■議 題：

- (1) 前回協議会の振り返り
- (2) 産学公連携実行プランの全体イメージ
- (3) 展開する施策について
- (4) プランの推進体制について

### ■議事要旨：

#### (1) 前回協議会の振り返り

- 産学公連携のイメージについて変更案は示されているが、変更の考え方を改めて教えてほしい。
  - 前回協議会において、学生を中心に図示している部分について、学生がハブととらえられる旨をご指摘いただき、3つのめざす姿を踏まえ、本地区が中心となり産学公連携を展開していく内容とした。(事務局)
  - 産ではなく、学が上にあり、産と公が支えているような配置がよいと思う。
  - 本地区は、このイメージの背景にあるものであり、中心に図示すべきではない。変更前の案では、3つの円(産・学・公)が交わり合っている点が良かった。変更案は3者の交わりがなくなっているため、内容を改めて検討してほしい。

- 産学公連携のイメージについて、引き続き検討する。（事務局）
- 前回協議会で施策としていた6点を取組方針と変更しているが、これら6点は、協議会が担う役割機能をまとめたものであり、「方針」とは意味が異なると感じる。
  - 前回出した施策では、具体性に欠けており、この6点を施策の前段として新たに施策を検討することとした。表現の方法については、協議会の意見を踏まえて、今後検討する。（事務局）
  - 3つのめざす姿の小項目とするか、内容を具体化させ施策として整理するか、展開する施策の検討に合わせて整理していただきたい。

## (2) 産学公連携実行プランの全体イメージ

- 全体のスケジュールがないと実行プランにならないと思うが、追加されるのか。
  - 展開する施策において、各施策のシートでスケジュールを整理していく。（事務局）
  - 各施策のスケジュールだけではなく、プランの全体的なスケジュールに対するマスタープランがあると良い。
- 各施策の優先順位、連動関係を議論したほうが良い。また、各施策のKPIを設定することで実行可能性が見えてくると思う。
  - 定性的なものを含め、各施策のKPIや連動関係を整理できると良い。
  - 施策の整理について、収支の流れまで整理しないと実現性が表現されないと思うが、どこまで本実行プランで具体化していくのか。
  - 本来の実行プランとしては、具体的な施策を記載することが理想ではあるが、現状を鑑み、抽象的な表現でまとめていきたい。施策の優先度の整理や具体化は、継続して協議体などを設けて検討していきたい。（事務局）
- めざす姿において、他地域の事例が整理されているが、本地区特有の内容（ポテンシャル）を掲載し、それらをどのように活用し、施策を展開していくかを整理してはどうか。

## (3) 展開する施策について

- 施策には、ソフト（サービス）、ハード（施設、場所など）に関する施策があり、それぞれ着手の優先度、順序があると思う。ハードに関する施策は、その整備や維持管理運営に時間や制限が生じるため、早期に施策実現のための協議等に着手して進めていく必要があると思う。
- 金沢の事例では、施設があるだけでなく、コーディネーターが常駐し、学生へアドバイスや指導が行われていることが有効的な点であると思う。そのため、本地区で同様の施設を運営する場合、コーディネーターの手腕が重要になる。
- 施策には、新産業創出の目的もあるため、地域の資源・ポテンシャル（SFC-IVのノウハウなど）を活用していくことが重要になる。
- 大学との連携としては、フィールドワークや万学博覧会などの取組が重要になる。
- ORF（Open Research Forum）は、これまで学生の研究発表の場として、六本木の東京ミッドタウンで開催し、企業向けに実施されていた。コロナ禍以降、万学博覧会の中で実施されており、その対象が、生徒やその親になっている。再度、企業も対象に含んで開催することで、多様な交流の場や機会の創出としても活用させることができると思う。
- 資料3の17頁、社会実験社会実装について記載されているが、実施するためには、地域資源を理解する必要がある。各取組方針を横断的に連携させた施策立案が必要になる。

- 辻堂では、朝ごはん朝市を開催しているが、学生連携の事例となると良いと思っている。学生が中心となり、農家やイベント参加者を巻き込んで開催されている。(事務局)
- 取組例で具体的なものから抽象的なものが混在しているが、滞在型市民農園など、規制緩和について検討が必要なものもある。(事務局)
- 3-2「健康・いきがいくりの推進(資料3、19頁)」に関連し、健康医療において本地区だけでは完結しないため、他地域と連携して価値を生み出していく必要がある。住民体力調査は、地域住民へどのように展開していくか検討が必要である。(事務局)
- 1-1「多様な交流の場や機会の創出(資料3、14頁)」、タウンポータルを活用した発信・交流促進について記載があるが、Fujisawa SSTでの取組について、地域間の横展開の実現可能性、課題についてどうか。  
→Fujisawa SSTのタウンポータルでは、周辺展開を考え、参入しやすさを目指し、アプリ化を行っている。その点において、他地域に展開する可能性はあると思う。一方、その中で行政サービスのデータ基盤連携を進めていく場合、成功例はあまりなく、県及び藤沢市としてどのように進めるか議論が必要と思う。その点、データ基盤連携は先の検討とし、コミュニケーションツールとしてタウンポータルを実装していくことが考えられる。
- 2-1「イノベーション人材やベンチャー、新産業の創出・育成(資料3、16頁)」について、スモールビジネスを作るか、地域の課題解決・イノベーションに関わるビジネスを作るのかにより、必要な支援が変わってくる。当地区では、後者が考えられるため、その点から施策を掘り下げていくと良いかと思う。  
→一般的なキャンパスタウンを目指すのか、特徴的なキャンパスタウンを目指すかにより施策が異なる。共創から事業化に向けて、実現するための要素が施策に盛り込まれると良い。SFCでも様々な共創活動が進められているが、資金面などの課題があるものとして、その課題解決につながる施策になるとよい。  
→地域特性やSFCの専門性を活かした形で、施策を示していくことが重要と思う。SFC内には、起業する学生や様々な学生活動が存在する中で、社会課題・地域課題の解決に関心を持つ学生・活動団体が多くいると思う。
- 施策例にエリアプラットフォームとあるが(資料4、4～5頁)、何を指すかが重要である。プラットフォームには、協議の場、実装フィールド、活動拠点などの意味があり、それぞれ具体的に記載したほうが良い。
- 学内では、法律上の制限から、営利活動が制限されるため、2-2「社会実験と社会実装の推進(資料3、17頁)」のように、地区内で学生の発想を試験的に取組める場、環境があるとよい。  
→学生の活動を地区内に展開させていくためにも、1-1「多様な交流の場や機会の創出(資料3、14頁)」のような地域の連携基盤があると良いため、それらを横断的に整理していくとよい。
- これまでのご意見から、めざす姿の実現に対し、交流の場や機会が必要であり、そのための拠点が必要であると理解した。また、それらを推進していくためには、イベント開催やコーディネーターの存在が重要になることと思う。そのため、各施策において、それらのハード的、ソフト的な取組が必要であり、展開する施策ごとにそれらがシート(資料4、5頁)の中で整理されるとよいと感じた。

#### (4) プランの推進体制について

- 具体的な施策が整理され、そこから考えられる課題が整理されることで、推進体制の内容の具体化につながると思う。

以 上